



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

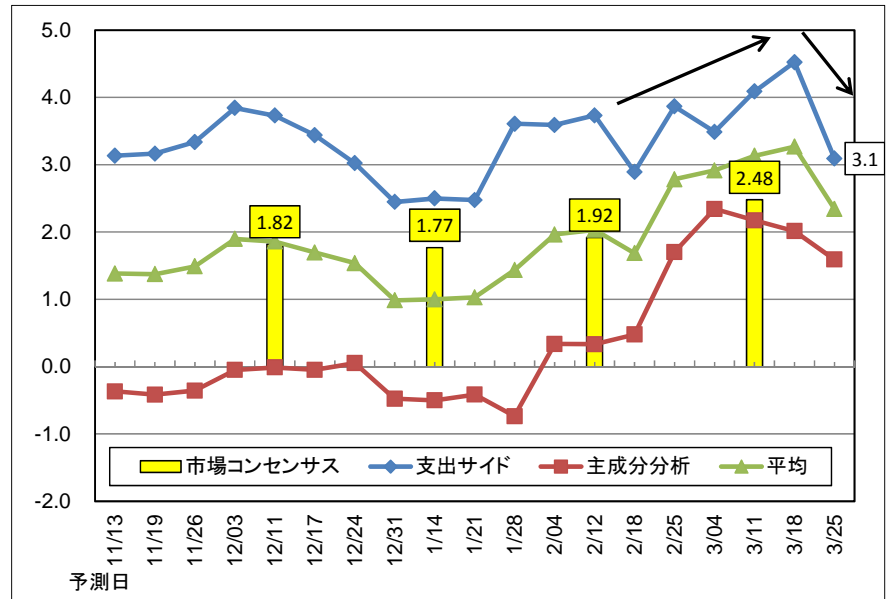
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年3月25日)

ポイント

- ▶先週(3/18-3/22)は、2月の貿易統計、1月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、建設総合統計及び景気動向指数(改定値)が更新された。
- ▶これらのデータは公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響する。
- ▶1月の公共工事(季節調整値)は前月比+9.5%と4ヵ月連続で拡大。1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。
- ▶2月の貿易収支(季節調整値)は24ヵ月連続の赤字を記録し、前月比+47.4%と3ヵ月ぶりに拡大。この結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅に下方修正された。
- ▶輸出の伸びは停滞しており、純輸出拡大による景気回復シナリオに遅れが生じている。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大するが、純輸出が小幅縮小するため前期比年率+3.1%と予測する。先週の予測から下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013Q1 (%、前期比年率換算)



＜気になる輸出の伸び停滞、純輸出拡大による景気回復シナリオに遅れ＞

先週(3/18-3/22)は、2月の貿易統計、1月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、建設総合統計及び景気動向指数(改定値)が更新された。これらのデータは、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響する。

1月の公共工事(建設総合統計)は前年同月比+15.2%となり12ヵ月連続のプラス。季節調整値(APIR 推計)は前月比+9.5%と4ヵ月連続で拡大している。1月実績は10-12月期平均比+10.3%高い水準となっており、これを更新した1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された(前期比+4.9%→同+8.7%)。

2月の貿易統計は悲観的な結果となった。同月の貿易収支(季節調整済値)は-1.0866兆円となり24ヵ月連続の赤字を記録した。前月比+47.4%と貿易赤字は3ヵ月ぶりに拡大。円安の影響を受け、(貿易赤字の)1-2月期平均は10-12月期平均比25.1%高い水準となっている。先週のレポートで報告したように円ベースの輸入物価の伸び(前月比)は輸出物価のそれを3ヵ月連続で上回っているが、それでも1-2月期の平均実質貿易収支は10-12月期平均を下回った(日銀ベースの実質貿易収支指数では-8.3%)。実績値を更新した結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅に下方修正された(8.104兆円→5.491兆円)。対中輸出の不振から輸出全体の伸びは停滞しており、想定している純輸出拡大による景気回復シナリオに遅れが生じている。

実質公的固定資本形成の予測値は上方修正されたが、実質純輸出の予測値は大幅下方修正された。このため、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大するが、純輸出が小幅縮小するため前期比年率+3.1%と予測する。先週の予測(+4.5%)から下方修正である。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550